SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

ABP Admissions(VIII Asia Bridge Program)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原, 芳久 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028613

ABP入試

原　芳久

1．特　　長

1）母国での受験が可能
- オンラインによる出願手続き
- 現地で実施されるEJU及び英語資格試験を活用
- オンライン面接の実施

2）入学検定料無料

ABP入試は、社会の変革を担うイノベーション人材として成長し、グローバルに活躍できるための知識及び技能、コミュニケーション能力、積極的に学ぶ意欲を備えた学生の選抜を目的として実施されているが、その最大の特長は、出願から合格発表までのすべての手続きを受験者が母国にいながら進められることである。オンライン出願システムの活用により郵送中の出願書類の紛失や遅配などの不安を解消するとともに、受験票や合否判定結果の受取りも即時かつ確実に行えるしくみが確立している。入試管理者側も各受験者の出願手続きをリアルタイムで確認できることから、必要に応じた支援の手を適時に差し伸べることが可能となっている。またオンライン面接は、面接試験会場までの移動に伴う受験者の時間的、経済的な負担を軽減するばかりでなく、新型コロナのような感染症予防のとりくみとしても有効であると考えている。

2．概　　要

ABP入試は2015年度に開始され、毎年、通常の募集（11月出願、3月合格発表）及びこの入試で募集人員を満たさない場合に行う第2次募集（6月出願、8月合格発表）の2度の入試を実施してきた。開始間もない2015、2016年度においては、出願要件である日本留学試験（以下、EJU）の受験者が少ないことに配慮し、EJU未受験者及びEJUの成績要件に満たない者に対して代替試験を行った。代替試験は、過去のEJUを参考にABP入試独自の試験問題を作成し、教職員が対象4か国（インド、インドネシア、タイ、ベトナム）に出向いて実施した。この2年間のとりくみによりABP入試にEJUが必要であることが広く知られ、また同時期に現地におけるEJU受験者数も大きく伸びてきたことから、2017年度には代替試験を廃止した。これにより、代替試験の作成及び教職員の手による現地入試の実施も不要となった。

その後、官公庁や企業に籍を置きながら就学するしくみを取り入れたり（2017年度）、第一次選抜の「基準」としていた日本語能力を「目安」としたり（2019年度）、また新たにミャンマーを対象国に加える（2019年度）などのとりくみを通して、優秀な人材を幅広く募る工夫を続けている。

３．当該期間の入試実績

令和三年度学士課程入試　第１次募集（2020年11月出願）　（人）

	学　　部	出願者	第一次合格者	第二次合格者
志望先別集計	人文社会科学部	31（－6）※	20（－2）	11（＋3）
	教育学部	0（0）	0（0）	0（0）
	情報学部	21（＋10）	17（＋8）	7（＋3）
	理学部	3（＋2）	3（＋3）	1（＋1）
	工学部	13（－1）	8（－2）	6（0）
	農学部	1（－3）	0（－1）	0（0）
	計	69（＋2）	48（＋6）	25（＋7）

	学　　部	出願者	第一次合格者	第二次合格者
出身国別集計	インド	0（0）	0（0）	0（0）
	インドネシア	10（＋1）	7（＋4）	6（＋3）
	タイ	5（＋3）	4（＋3）	1（＋1）
	ベトナム	54（0）	37（－1）	18（＋3）
	ミャンマー	0（－2）	0（0）	0（0）
	計	69（＋2）	48（＋6）	25（＋7）

※いずれの表も（　）内の数値は、令和二年度第１次募集と比較した人数の増減を示す。

※オンライン出願サイトへの登録者は168（＋28）人。

４．前年度入試からの改善及び本年度入試における工夫

新型コロナへの対応のため、昨年度、本年度と第二次選抜（面接試験）の実施方法を、対面式からオンライン式に変更している。面接試験員となる学部教員からは「可能であれば、直接会ってやりとりをしたい」旨の希望を少なからず聞いているが、公共交通機関で長時間移動することを余儀なくされる受験者の感染リスクを抑えることは、入試の実施者として配慮すべき点と考えている。実際に受験者の所属する日本語学校などから面接試験の実施方法についての問い合わせが複数件あり、「対面式の場合には面接を見送らせることも考えている」といった声も聞かれた。また令和二年度学士課程第２次募集においては、この「面接試験の実施方法変更のお知らせ（ABP Websiteでの公表）」を約３週間前に行ったが、本年度学士課程第１次募集においてはこれを４週間前とした。学士課程受験者は修士課程受験者と異なって自身のPCを持たない者も多く、所属する高校や日本語学校のPCを借りて受験する（オンライン面接に先立つ事前接続チェックも併せて行う）ための調整など、オンライン面接受験のための準備の時間が必要であると考えた対応である。

さらに今年度入試においては第２回EJUが中止の場合の対応や、通常の計画とは異なる日程で実施された英語資格試験（TOEIC®L&R及びTOEFL iBT®Special Home Edition）のいずれを有効と認めるかの判断など、新型コロナによる様々な変更にかかる情報収集と判断、またこれに基づく実践と、入試運営にかかる総合的な判断力と対応力を試される場面が多かったが、結果としてすべての入試手続きを問題なく完了することができた。